

社会全体で子育てを支援

このような状況を踏まえて、県は「やまなし子育て支援プラン」の見直しを行い、

◎子育て期におけるワーク・ライフ・バランスの推進

◎山梨ならではの子育ての推進

◎社会的養護を必要とする子どもや心に問題を抱える子どもたちへの支援

◎多様な主体の参画、協働の推進

を基本として、県民一人ひとりがそれぞれの立場で、子どもたちの健やかな成長に関わり、社会全体で子どもや子育て家庭を支援するため、「やまなし子育て支援プラン後期計画」を策定しました。

後期計画は、今年度から平成26年度までの5カ年計画です。この後期計画では、次の3つのプロジェクトに重点的に取り組めます。



特集 笑顔の子育てを笑顔で応援する社会の実現に向けて

やまなし子育て支援プラン後期計画



菌止めがかからない少子化

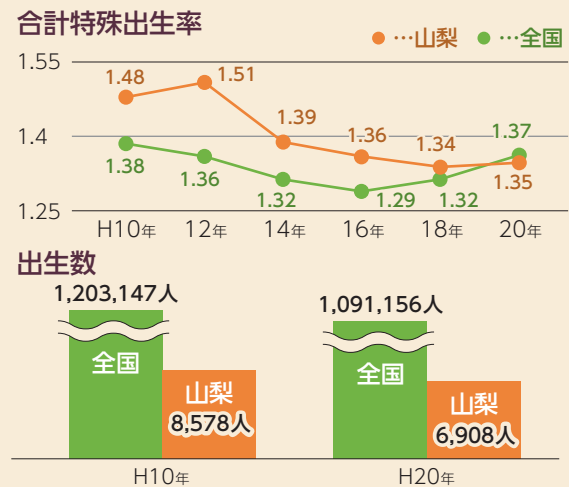
県では、平成17年2月に「やまなし子育て支援プラン（前期計画）」を策定し、これまで子育て支援施策を推進してきました。

しかし、県・市町村・企業の子育て支援の取り組みにもかかわらず、依然として出生児数が減少し、合計特殊出生率も横ばいの状況となっているなど、少子化に歯止めが掛からない状況です（図表）。過去5年間の取り組みに対する検証、市町村におけるニーズ調査、子育て関係者からのご意見などから、次のような課題が依然として残っていることが明らかになりました。

- ◎家庭や地域における子育て機能が低下し、身近に子育ての相談相手がいなかったため子育てに不安を持つ親が増加
- ◎子育てに係る経済的負担を理由に、結婚・出産をためらう傾向
- ◎就学前の子どもを持つ女性の約4割が出産を機に離職しており、保育サービスの充実や働きやすい職場環境の整備が必要
- ◎家庭で0歳から3歳児の子育てをしている親

図表

国・県とも合計特殊出生率と出生数のいずれもが10年前の水準を上回ることができずにいます。



注記 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。一生の間に産む子どもの数を示す人口統計の指標です。

は、公的支援が受けづらく子育てに関する不安感や孤独感が強い

◎不登校や児童虐待、発達障害など、心に問題を抱える子どもが増えており、きめ細かな支援が必要

依 然として進行する少子化に対して、「やまなし子育て支援プラン後期計画」を策定しました。「暮らしやすさ日本一」を目指し、誰もがいきいきと暮らせるよう、県民一体となった取り組みを進めています。

重点プロジェクト 3 全ての児童への支援推進プロジェクト

近年、児童への虐待の件数は増加の一途をたどるなど、保護を必要とする児童へのきめ細かな対応が求められています。また、ひとり親家庭が増加する中で、親の自立を支援し、児童の健全な育成を図るとともに、障害をもつ子どもやその家族への支援を行い、すべての子どもたちが家族の愛情や地域における支援のもと、大切に育成される社会を実現する必要があります。

具体的な取り組み

- ①社会的養護体制の整備の促進
- ②ひとり親家庭の自立の促進
- ③障害児の社会参加の推進
- ④子どもの心の健康対策の推進

関連事業例
子どもメンタルクリニック

重点プロジェクト 2 届け！安心子育て情報発信プロジェクト

出産や子育てに関する不安感を払拭するためには、関連する情報を必要としている人に確実に届けることが重要です。相談窓口を設け、情報を提供するだけでなく、双方向で情報をやりとりし、県民同士が交流できる参加型のシステムづくりや、子育て中の親のニーズにこたえ、きめ細かな情報をオンデマンドで提供していくことなどが重要です。

具体的な取り組み

- ①子育て支援情報のきめ細かな提供の推進

関連事業例
子育てバリアフリーマップ

- ②健診等の場を活用した取り組みの促進
- ③子育て支援団体等のネットワーク化の推進

重点プロジェクト 1 みんなで明るく0歳から3歳子育て推進プロジェクト

0歳から3歳児の子育てをしている親の中には公的支援が受けづらく、核家族化の進行により家庭内に相談相手がいらない現状から、子育てへの不安感を募らせたり、孤独感を強く感じる人もいます。このことは、増加する児童虐待などの要因の一つとなっており、家庭から親同士の交流の場などへ導き出す取り組みが必要となっています。

具体的な取り組み

- ①親子の交流を図り、子育ての喜びを感じられる場の整備推進

関連事業例
子育てハーモニーひろば

- ②健診等の場を活用した取り組みの促進
- ③男性の子育ての促進
- ④保育サービスの充実の促進

重点プロジェクト① 子育てハーモニーひろば

知っていますか？

「子育てハーモニーひろば」

子育てをしている保護者の不安感の軽減と、孤立化を防ぐため、日ごの利用するスーパーマーケットやショッピングモールなどに、気軽に立ち



「子育てハーモニーひろば」

ち寄れる「子育てハーモニーひろば」を設置。ここでは、子育て講座の開催や育児相談など幅広い子育て支援サービスを提供しています。

県内には、次の3カ所が設置されています。

- 富士急行線富士吉田駅ターミナルビルQ-STA3階
(株)富士急百貨店
電話 0555-23-1111
- 南アルプス市小笠原商店街
あんふあんねっと
電話 090-6195-9061または
090-6195-9198
- アピタ田富店2階
こどもプロジェクト(株)
電話 080-1010-7789

今回は、富士吉田市の富士急百貨店さんにおじゃましました。

自育児児から社会の中へ。
はじめての一步を「ひろば」から



(株)富士急百貨店 常務 天野克宏さん



スタッフが子育ての悩みをお聞きします



初めて会った親子が互いに自己紹介することでうちとけていきます

注目すべきはその立地。富士急行・富士吉田駅ビルQ-STA内という

好アクセスに加え、予約不要・無料という利用しやすさで、昨年7月のオープンからの利用者はすでに7600名を超えています。

県内で多くの実績を持つ育児支援NPO法人「子育てふぁんはうすふわっと」の協力を得て、にぎわう「ひろば」を運営しています。

また、お誕生日会や音楽遊びで子どもたちをのびのびと楽しませ、専門家の育児相談やテナントの協力によるマッサージ体験などで、育児に追われる親にもホッとできるひとときを提供しています。利用者の利便性と、集客や話題づくりといった企業のメリットがバランスよく実現されたケースといえるでしょう。

開かれた子育ての扉が 地域支援の連鎖を生む

NPO法人 子育てふぁんはうす 代表 渡辺弘美さん



毎日買物をする場所のすぐとなりに、「子育てハーモニーひろば」がある。通りすがりの人がふと覗いて、興味を持ってもらえる。自宅に閉じこもりがちなる育児中の親子にとって「ひろば」の開かれた雰囲気は「気軽に利用してみよう」と思ってもらえるはず。

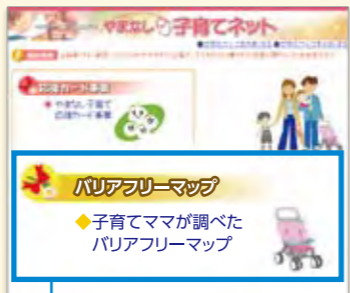
開設されてから利用者同士の輪も広がり、お買い物にきていた女子高生グループがボランティアを申し出てくれたりと、地域サポーターの好連鎖が生み出されています。

重点プロジェクト② 子育てバリアフリーマップ

やまなし子育てネット 検索

<http://www.pref.yamanashi.jp/kosodate/>

ホームページを検索



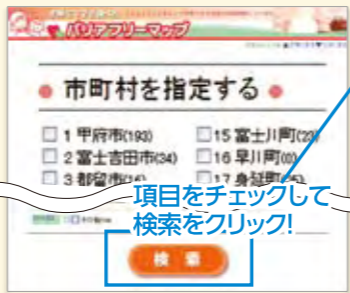
① バリアフリーマップをクリック!

実際に子育てママがベビーカーを押しながらチェックした「親子のお出かけにやさしい施設」の情報が満載です!



② 施設を探すをクリック!

ベビーカーや車いすで利用できるトイレ、おむつの交換所や授乳室など、子育てファミリーをサポートする設備を検索できます。



③ エリア、利用したい設備や目的などをチェック

該当する項目をチェックして検索ボタンを押すと、絞り込まれた施設一覧が表示。詳細を見たい施設をクリック!



④ 各施設の詳細・アクセスなどが見られます!

「子育てママからのコメント」は、利用した時の感想をほぼそのまま掲載。参考になりますよ!

子育てママからのコメント
寝かしておけるベビーカーはお座りできない子ども連れにはありがたい。広いプレイルームは子どもが喜びそう。館内はとでもきれいで、トイレも子供が行きやすいように工夫されている。サークルなどにも利用可能、お昼など食べる部屋もある。

おでかけに
ぴったり
やまなし
子育てネット
好評配信中!

重点プロジェクト③ 子どもメンタルクリニック

気持ちを伝えられない
子どもの心の声に耳をすませる



医師 金重紅美子さん

かわいらしいぬいぐるみやオモチャがそこかしこに置かれた、パステルカラーの部屋。いわゆる「診察室」のイメージとはかけ離れたこの部屋で、ドクターは子どもと視線を合わせ、穏やかに語りかけます。

「子どもメンタルクリニック」は完全予約制で診療はひとり1時間、主に児童相談所、発達障害者支援センターなどを通じて受診者を受け入れています。

「子どもメンタルクリニック」は、これまでこのケアが必要な子、ひきこもりの子……さまざまなお子さんが訪れます。自分の問題や気持ちを伝えられる子ばかりではないため、会話がままならない場合は行動観察が頼り。限られた時間の中、子どもの苦しみをいかにすくい上げられるか、研鑽の日々です。子どもの診察は毎回時間がかかることもあって、診療までの待機日数が長くなってしまいうことが悩みの種です」という金重先生。

子どもメンタルクリニック
甲府市北新1丁目2-12
中央児童相談所(県福祉プラザ内)
電話: 0555-254-8650



「どんな遊びが好き? なかよしのお友だちは?」優しい問いかけが子どもの心を開かせていきます。

環境を築くことができたら、クリニックの存在意義はさらに高まってくるでしょう。